

人の福祉と動物福祉 研究と実践のフロンティア

9/16、9/30、10/14、10/28 (全4回) 土曜 14:00 ~ 17:00

オンライン開催 (Zoom ミーティングを使用予定)

私たちの身近にいるペットは、人の生活の質を向上させるという研究が多数なされている。一方で、動物たち自身にとっての幸福や動物らしく生きる権利は、どうしても人間の都合によって大きく左右される。人の福祉と動物のウェルビーイングを両立させるために、私たちはどのような社会を目指せばいいのか？本セミナーでは、Human-Animal Studies (人と動物の関係学) の最新の研究と実践を紹介し、動物と共に生きていく社会について考える。

● セミナーの進め方 ●

本セミナーでは、アクティブラーニングの方法を採用する。参加者は指定された文献を予め読み、コメントを用意する過程で考えることの楽しさを体験していく。全員での活発なディスカッションなど、積極的な参加が求められる。

第1回 (9/16) Human-Animal Studies 世界の研究動向

第2回 (9/30) ホームレスとペットの社会学的研究

第3回 (10/14) ペットと一緒に入れるシェルター「ボブハウス」の活動

第4回 (10/28) まとめ 単一で単純なアプローチに抗して



対 象：動物福祉に関心のある学生、教職員、一般

受講料：一般 5,000 円、学生 2,000 円

● 申込方法と注意事項 ●

- ・定員 30 名。ただし 7 名に満たない場合は中止となります。
- ・全4回の参加を前提とし、申し込み後の返金は 認めません。
- ・使用するテキスト (4950 円) は参加者が各自購入していただきます。
- ・右記 QR コードよりお申し込みください。
- ・申込締切は 8 月 25 日 (金) 12 時になります。

お申込はこちら →



テキスト

受講者は必ず以下の書籍を各自で入手してください

『動物倫理の最前線：批判的動物研究とは何か』井上太一著（2022年、人文書院）4950円

<http://www.jimbunshoin.co.jp/book/b603186.html>

購入はこちら ➡



講義内容

第1回 9/16（土）「Human-Animal Studies 世界の研究動向」（講師：梶原はづき）

セミナーのイントロダクションと参加者の自己紹介後、翻訳家で動物の権利活動家でもある井上氏の著作から、現在の世界的な研究動向を学ぶ。

『動物倫理の最前線：批判的動物研究とは何か』井上太一著

序論

第一章 動物たちの現状

第二章 道徳哲学

第2回 9/30（土）「ホームレスとペットの社会学的研究」（講師：梶原はづき）

危機的な状況下で生きる人々にとって、動物がどんな意味を持つのかを考える。また本書から、アメリカでホームレスと動物にどのような支援が行われているかを知る。井上の文献の他に、アメリカの社会学者 Leslie Irvine による、ペットと暮らすホームレスの人々へのインタビュー調査について梶原が報告する。

『動物倫理の最前線：批判的動物研究とは何か』井上太一著

第三章 社会学

第四章 ポスト人間主義

『My dog always eats first : Homeless people and their animals』Leslie Irvine

（資料を配布するので必ずしも本を購入する必要はありません）

第3回 10/14（土）特別講義「ペットと一緒に入れるシェルター「ボブハウス」の活動」（講師：稲葉剛）

一般社団法人「反貧困ネットワーク」と「つくろい東京ファンド」は、2020年6月に、家を失った飼い主とペットを支援する「反貧困犬猫部」を立ち上げた。住む場所を失った人たちが、ペットとともに暮らしていけるよう支援する個室シェルター「ボブハウス」の活動を通じ、コロナ禍を含むこの3年間の日本社会の現実をお話いただく。そこから、災害級の危機に際して本当に人と動物に必要な支援を考えていく。

※特別講義につき文献購読はなし。

第4回 10/28（土）まとめ「単一で単純なアプローチに抗して」（講師：梶原はづき）

ペットは人を癒すといった単純な見方はもはや過去のものである。まとめでは、ペットの死による自死や、ペットを巻き込んでの拡大自死の研究論文（例えば Young, Janette, Oxley, James Andrew, Tamara Montrose, V and Herzog, Harold (2023) *Pesticide: An Analysis of Online News Media Articles of Human Suicide Involving Pet Animals*. ANTHROZOOS, 36 (2). pp. 179-194.）を紹介しつつ、私たちが動物と結ぶ複雑な絆について考える。

『動物倫理の最前線：批判的動物研究とは何か』井上太一著

第五章 フェミニズム

終章 総合的解放

講師紹介

<第1・2・4回 担当>

梶原 はづき（立教大学社会福祉研究所研究員／立教大学社会学部兼任講師）

専門は社会学、特に人と動物の関係。著書に『災害とコンパニオンアニマルの社会学：批判的実在論と Human-Animal Studies で読み解く東日本大震災』（第三書館、2019年）など。2000年にペットとの死別の悲しみをサポートする自助グループ Pet Lovers Meeting を立ち上げ、以降代表を務める。

<第3回 担当>

稲葉 剛（一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事／立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科客員教授）

2001年に自立生活サポートセンター・もやいを設立し、幅広い生活困窮者への相談・支援活動を展開。2014年にはつくろい東京ファンドを設立し、空き家を活用した低所得者向け住宅支援事業に取り組んでいる。著書に『貧困パンデミック』（明石書店 2021年）、『閉ざされた扉をこじ開ける』（朝日新書 2020年）など。